

テーマ	3	強みを生かした産業振興によるにぎわいのまち（産業振興）	
施策	6	港湾	
所管部	産業港湾部	関係部	

施策の 目的	小樽港の歴史、地理的特性、関連産業の集積などを生かした活力のある魅力的な港湾を目指します。
--------------------------	--

市民アンケート指標の推移										
港に魅力や活力を感じている市民の割合							基準値(R1)		目標値(R10)	
							29.6%		基準値より増	
実績	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	29.6%	-	34.6%	-	30.0%	-	52.8%			

[illegible]

[illegible]

(4) 石狩湾新港との連携 ○石狩湾新港管理組合への参画を通じた港湾施設の整備及び企業立地の推進による石狩湾新港地域の活性化（産業港湾部港湾室、産業港湾部産業振興課） ○小樽港と石狩湾新港との相互連携による両港の利用促進（産業港湾部港湾室）				両港のタグボート相互利用等のポートサービス連携により寄港した船舶の隻数							基準値(H30)		目標値(R10)	
	該当事業なし										89隻		基準値より増	
				実	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
				績	105隻	99隻	112隻	83隻	118隻	100隻				

II 各部評価（各部による自己評価）

施策の進捗

- ・おおむね計画通りに事業化できている。
- ・第3号ふ頭及び周辺地域の再開発は順調であり、令和7年度に整備が完了する見込みであり、緑地のイベントエリアや親水空間の供用を見込んでいる。
- ・一方、供用開始から50年を経過した港湾施設は全体の6割以上であり、引き続き老朽化対策を行っていく必要がある。

効果の発現状況

- ・市民アンケート「港に魅力や活力を感じている市民の割合」が52.8%となり、前回調査時より20ポイント以上上昇していることから第3号ふ頭の整備やクルーズ船の寄港が一定程度寄与していると推察される。
- ・クルーズ交流やみなと観光を核とした賑わいを創出する空間として「みなとオアシス小樽」がみなとオアシスに登録されたほか、「ポート・オブ・ザ・イヤー2024」「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2024特別賞」の受賞につながったと考えられる。

構成事業の妥当性

- ・港湾分野の施策の全体構成は、総合計画が掲げる物流機能の維持、安全・安心なインフラの確保、およびクルーズ振興や石狩湾新港との連携による地域活性化の目的に照らし、おおむね妥当である。
- ・一方で、施設の急激な老朽化という構造的課題に対応するためには、個別の単年度事業の積み上げに留まらず、予防保全型への移行や資源配分の最適化が必要である。

その他（必要に応じて記載）

今後の施策改善の方向性

- ・当施策を推進してきた方向性は妥当と考えられる。
- ・小樽港の物流活性化に向け、官民一体の連携体制を維持し、ポートセールスを強化していく。
- ・クルーズ船の寄港回数増に向け、さらなるポートセールスや寄港対応の効率化について、検討を進める。
- ・第3号ふ頭を中心とする「みなとオアシス小樽」について、「港を巷に」をコンセプトとし、市民や観光客による賑わい空間を新たに創出するため、各施設の連携を図りながら、市民参加による、みなとまちづくりを進める。
- ・限られた財源や人員の中で投資対効果を最大化するため、インフラの長寿命化計画や官民連携の推進をより戦略的に連動させ、持続可能な港湾運営体制へと発展させていく。

III 二役フィードバック

各部評価に対する意見等